

若い衆カモーン!

…技術もヒトもつながるように…

宮崎有機農業研究会 青年部会の巻
(宮崎県西都市)

今年10周年を迎えた宮崎有機農業研究会。昨年10月には「青年部会」も発足、「若い衆といたら、東の新農研(※1)、西の宮崎有機だよ! (らでいっしゅぼーや農産部談)」というお墨付きをもらっている彼ら。青年部会の第4回目の集まりがあると聞き、さっそく会いに一路宮崎へ。



「うちの地域には同じことをする人も興味を持つ人もいないから、宮崎有機の人たちに会えて良かった!」「最近の天候不順は、環境破壊も一因。オレたちの農業は少しでも環境にやさしいことをやっているんだと思う」。

10月11日、4組5名が集まり、改めて自分たちの農業について話してくれました。宮崎という地でらでいっしゅの会員さんになかなか会えない、もっと声を届けたい、自分たちの地域やくらしも知ってもらいたい…そんな想いをかたちにしようと、まずは、らでいっしゅのWEST会員さんへ

月に一度お届けしている「産地指定便」の中で青年部会が持ち回りでメッセージを発信することに。また、出荷した作物がどんなふうに着詰めされてみんなの手元に届くのか見学したい、経済的負担を減らせるように農業資材や機械の助成についての勉強会や、眠っている機材などの情報交換の場を設けたい、といった声も。「父が勉強会から戻って『すごくよかった』って言うから、『どう良かったの?』って聞いても習ったことの2割くらいしか伝わらないんです。自分で出席してやっとそういうことかーって分かりました。これからもつ

と自分から動いていかなきゃって思いましたね」という海蔵ゆかりさんの言葉に大きくうなずく一同。普段の彼らは、根菜・果樹・葉物などの部会に別れ、なかなか顔を合わせる機会がありません。そして全体の集まりや勉強会へ出席するのは、主にご両親たち。「今まで、集まりで若いヤツっていうとボクだけやった。今日のメンバーでこんなにたくさん話せてすごく充実!」と青年部会リーダーの大橋康宇さん。それぞれの思いを共有し、本格的に活動がはじまる青年部会の今後に乞うご期待です。(事務局・島田)

●大橋康宇さん

会社員時代に体調を崩し帰郷。それまで里芋は泥臭い、おいしくないと思っていたのに実家の里芋は食べられるようになったことが有機農業を継ぎきっかけに。来年1月の結婚を控え、周りから「人手が増えていいね」と言われるたび「労働力が欲しくて結婚するんじゃないか」と切り返す骨太な男。現在、過剰な肥料をいかに補正するか、実験圃場を作り勉強中。



牛の世話と畑を掛け持つ31才。里芋のほか、人参、さつまいも、大根、じゃがいもなども。

●萩原毅さん

萩原農園営業担当(!?)。スーパーマーケット勤務の後、有機農業先進地と言われている綾町(※2)のアンテナショップのようなお店づくりに挑戦。おばあちゃん団子やお弁当、養護施設の手工芸品なども販売した。現在宮崎有機の会長を務め



チンゲン菜など葉物を栽培。会って話して買ってもらえることが楽しい!花嫁募集の30才。

る父のもとで栽培技術の修行中。「28年前お母ちゃんが始めた宅配は想いや哲学で売ってきた。宮崎有機と関わりらでいっしゅの勉強会に出ることで、技術向上の大切さを知った。もっと勉強したい」。……想いはいつも熱い。

●鴨田幸治さん

7月に長男羽戸くん誕生。これまでの勉強の成果が実り、今年「おいしい!」と多くの声が届いた鴨田さんのかぼちゃ。「うちはスイカもつくるけど、かぼちゃはスイカの倍手間がかかる。周囲はみな慣行栽培で、すごく余裕があってラクそうに見える。僕らのやっつることの意義を話しても誰も興味も持たないし、がんばった分報われるかというところでもない、正直ツライ」…なんとか応援したいものです。



27才。元柔道の経験が生きる!?アームレスリングに熱中。「これが奥が深くておもしろい!」

●海蔵智裕さん、ゆかりさん

ゆかりさんは元バスガイド。カメラマンの智裕さんとはTVの取材で出会った。「梨の観光農園もやっていて直接消費者の声を聴け、僕ら

の生の声も聴いてもいい安心して買ってもらえるのは嬉しい。有機農業を何度か取材し両親にも話をしてきた。初めは聴いてくれなかったが宮崎有機に関わって、本当に出来るんだと感じはじめていると思う(智裕さん)。



32才。カメラマンを続けているので農業はまだお手伝い。「将来は就農してがんばりたいね」。



29才。碧瑛(りお)ちゃん7才、楓寧(ひな)ちゃん6才、翠玖(りく)くん1才。3児の母とは思えない若さと美貌の持ち主(筆者談)

親の頑張ってきたことを譲り受けたい。「これをやらせないといけない」と思うと頑張れる。最近は両親も生き生きして若返っちゃって父と作業したら夫婦と間違われたり(笑)ひどいでしょう?(ゆかりさん)

青年部会には、この5名のほかに小泉正浩さん、大久保義広さん、殿所久幸さんの40代トリオが自称青年として在籍しています。

(※1) 新農業研究会:青森県にある生産者グループ。若手8名で土壌分析も施肥設計もこなしオヤジさんたちを盛り立てている。
(※2) 宮崎県綾町:昭和63年7月に全国初の「自然生態系農業の推進に関する条例」を制定し生産者・農協・町が一体となって有機農業に取り組んでいる。